



仲間との絆を！



仲間とは、『一緒に物事をする間柄』



水泳は個人競技というイメージですが、リレー種目もあり団体競技でもあります。友達と一緒にだから楽しいし、辛い練習も乗り越えることができるでしょう。学校が違う「イトマンの友達」を作り、一緒に**1級合格卒業**という目標に向かって頑張っていけるように仲間づくりも大切です。

また、友達を作ることは社会性を身につけることにつながります★

イトマンに通う生徒は、進級するたび新しい友達、メンバーで練習を行いそのたびに友達を作っているためコミュニケーション力を養うことができます。

一方で・・・

子どもたちの現状というと

- 1) 子どもたちは気の合う限られた集団の中でのみ、コミュニケーションをとる傾向があります。また、コミュニケーションをとっているつもりが実際は自分の思いを一方向的に伝えるだけという指摘があります。
- 2) インターネットを通じたコミュニケーションが子どもたちに普及している一方、外での遊びや自然体験等の機会の減少により、身体性や身体感覚が乏しくなっていることが、他者との関係づくりに負の影響を及ぼしているとの指摘もあります。



子供は人との関わりの中で、他人との葛藤を通して試行錯誤しながら社会性を身につけます。子供が最初に社会的スキルを学ぶのは親、その後仲間からも多くを学ぶようになります。人と関わる機会が増えるほど、人との関わり方もうまくなっていきます。それにより、同じ目的を持った多くの仲間の中で行動や発言力(表現力)も徐々に確立していきます。

大事なことは子どもが他者との間で有意義な絆を築けるようになることです。人の気持ちを知り、うまく人づきあいができるようになり、そして、困った状況にも適応できるスキルを身につけることです。



仲間意識を強くするには・・・様々な事を共有すること！

- 1 ミッションの共有
例)各クラスのテストポイントがミッションになります！
- 2 目標の共有
例)合格、卒業という目標を目指します★
- 3 感情の共有
例)プールが楽しい
合格して嬉しい等の感情を共有します。



小学校中学年に高めると良い能力・・・《自己有用感》

自己有用感とは、集団で自分が役立つ人間だと感じる感情のこと。自己有用感を獲得することは、「自分でもできる」という**子供の自信**や集団の一員としての**社会性**が身につくだけでなく、自分は価値のある人間だということを理解する**「自尊感情」**を高めることにもつながります。自己有用感が高いと**積極性がある**、**人とかかわるのが好き**、**思いやりがある**、**協調性が高い**、**主体性がある**性質が見られます。自己有用感を高める方法として、異なる年齢の人とのかかわりを増やすことが考えられます。異年齢交流は、**自己有用感の獲得**や**自分の存在**

価値の認識に効果的！さまざまな年齢の人との交流の中での、「人に何かをしてあげる」「人から何かしてもらう」などの体験を通して、**他者への感謝**や**人とかかわる喜び**を感じることが出来ます。

自己有用感で生じる感情

- ・誰かに必要とされていると感じる
- ・誰かが自分に関心を持っていると感じる
- ・自分の存在を認めてくれる人がいる等々

